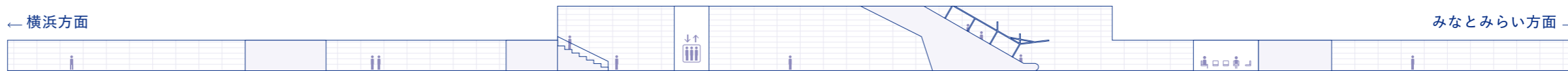
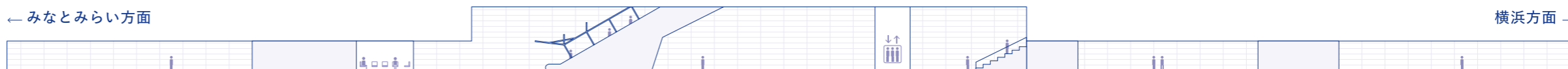


「新高島駅」1番線ホーム



「新高島駅」2番線ホーム



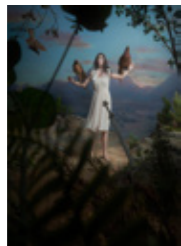
会期 | 2020年9月26日[土]～10月11日[日]
会場 | みなとみらい線 新高島駅ホーム

海外には、もと駅だった空間をリニューアルした美術館が散見される。パリのオルセー美術館はその好例だが、現在の横浜美術館も形式的にはその構造を引いている。今回のプロジェクトでは、駅の地下深くの燻し銀の壁面に絵画作品群を設置する。

一般部門

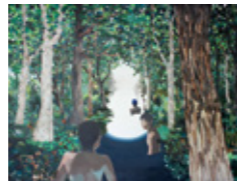
関本幸治(せきもと・こうじ)

(せきもと・こうじ)
1969年神戸生まれ。1996年愛知県立芸術大学美術科修了後、2003年までケルンに渡欧。現在横浜に拠点をおき活動中。主な展覧会として2020「光をまげてやる」(京都場/京都)、2014「羽のない妖精」(TRAUMARIS SPACE/東京)、2014「Photo Studio Chair:東アジアの夢 Landmark Project V(出品馬車道商栄ビル壁面/横浜)、2012「Asia Serendipity」(フェルナン・ゴメス劇場/スペイン)他。



幸田千依(こうだ・ちえ)

1983年、東京生まれ 長崎市育ち。2007年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。AIR活動として、2011「寿から絵を放つ」(横浜)、2012「台北国際芸術村」(台北)、2015「ARKO2015」(大原美術館/岡山)、2016「アーティストインレジデンスつなぎ2016」(つなぎ美術館/熊本)他。2013年Under35(BankART Studio NYK/横浜)、2013「磯部湯活用プロジェクト」(アーツ前橋/群馬)、2017年VOCA展にてVOCA賞受賞。



小山穂太郎(こやま・ほたろう)

1955年東京生まれ。東京藝術大学美術学部絵画科教授。1995文化庁在外研修員としてパリ滞在。2005東川国際写真賞国内作家賞。主な展覧会として、1990「移行するイメージ・80年代の映像表現」(京都、東京国立近代美術館)、1997「メイド・イン・フランス」(ポンピドー・センター/パリ)、1997「光州ビエンナーレ'97 混生/樹木」(韓国)、2013 & 2014「ゆうれいはここにいる」(秋山画廊/東京)、2014「Landmark Project V」(国道駅/横浜)。



公募部門

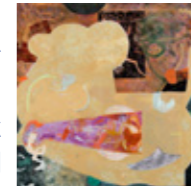
松山 賢(まつやま・けん)

岩手県御所野遺跡近くで生まれ、湯舟沢遺跡横で育つ。京都市立芸術大学大学院修了。横浜市三殿台遺跡そばに在住。日本画制作を経て、土器、人形、彫刻に着手。最近では油彩画、野焼きによる陶彫を制作、発表している。主な個展に、2019「土器怪人土偶怪獣」(農と縄文の体験実習館なじもん/新潟)、「縄文風時代」(横浜 & 新宿高島屋美術画廊)主なグループ展に、2019「美少女の美術史」(北師美術館/台北)、2019「はにわ、どぐう、かえんどきの昭和平成」(新潟県立歴史博物館/新潟)。



高橋美乃里(たかはし・みのり)

1994年神奈川生まれ、横浜在住。「物の形が変わること」と「日常の反転を試みる」ことに強い興味があり、「影の形」をきっかけに制作している。2020年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。主な展示に2018「スクエア・ザ・ダブル Vol.12」(フリュウギャラリー/東京)。2018「アタミアートウィーク2018」(静岡)。受賞歴に2018「ワンダーシード2018入選」(東京)、2020「福沢一郎賞、優秀作品賞」(多摩美術大学)。



リュウ・リン

横浜市出身。米国サンフランシスコ市、Academy of Art University(旧 Academy of Art College)美術学部版画専攻卒。カリフォルニア版画家協会会員。米国サンフランシスコ市に18年間居住後、横浜へ再移住。現在、横浜・石川町にてLAUNCH PAD GALLERYを運営し活動拠点を置く。直近の展示は、2020「Hanga」(ゆう画廊/東京)など



樋口昌美(ひぐち・まさみ)

横浜市生まれ・在住。2012～2014「新・港区ハンマーヘッドスタジオ入居など、横浜でのレジデンスプログラムを中心に活動している。2015「Winter Garden」(赤い家/横浜)、2014「夏祭りグループ展」(LAUNCH PAD GALLERY/横浜)、2012「樋口昌美展」(岩崎美術館/横浜)。



細淵太麻紀(ほそぶち・たまき)

埼玉県川越市生まれ横浜在住。多摩美術大学にてグラフィックデザインを専攻、写真教室CORPUSにて多くの写真家から学ぶ。1996年より都市をテーマに活動する建築・美術ユニットPHスタジオに参加。2004年、BankART1929の立ち上げにかかわり、以降組織・施設の企画運営全般に携わる。2017年より「現像」共同主宰。主な展覧会に「photopia/scotopia-東京 現像vol.4」(TOKAS本郷/2018)など。2019年、新高島駅上みなとみらい53街区の空地にてプロジェクト「路傍のピクニック」を展開、2020年「Roadside Picnic in Taipei」(剥皮寮歴史街区+台北国際芸術村)。



松本倫子(まつもと・みちこ)

1973年生まれ。2000年に統合失調症を発症。2010studio COOCAに入所、2018年に退所。天真爛漫な人たちに出会いリラックスして絵を描くことができるようになる。2011年ほっぺ(猫)を動物愛護協会から譲ってもらう。2015年ART FAIR 東京出展他、様々な活動を展開中。2019「ニューヨークに銭湯」(BankART SILK/横浜)2020「松本倫子 自由でOK!!展」/「松本秋則 風の奏でる竹の音展」(絵本と木の実の美術館/妻有)。



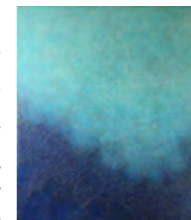
原遊(はら・ゆう)

2015年から横浜市在住。画布、木枠、色層などの絵画のコードをテーマにした絵画を制作。主な個展に、2011「Flying classroom」(奈義町美術館/岡山)、2013「Yu Hara -SAN-SUI-」(Cutlog/パリ)、2017「原遊 2007 >> 2017」(NODA CONTEMPORARY/愛知)。主なグループ展に、2018「アブラカダブラ絵画展」(市原湖畔美術館/千葉)、2019「情の深みと浅さ」(ヤマザキマザック美術館/愛知)、2020年「絵画のミカタ」(群馬県立近代美術館/群馬)など。



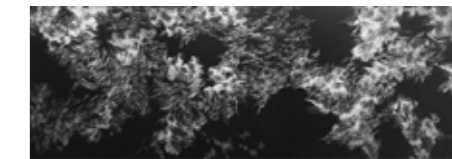
コンドウピコ

横浜生まれ横浜育ち。Wearable Artをコンセプトとしたジュエリー作りをきっかけに独学で作品制作を始め、独自の技法による青の世界が特徴的な作風を確立。近年ではVoyaging シリーズと題した見る人が自心の中を旅するように内観へと導くような作品を中心に制作発表。2004年より横浜やニューヨークで個展を開催。2020年、活動拠点をニューヨークから横浜へ移し新しい環境で再スタート。



Tobby(とびー)

横浜市出身。2012「BankART AIR」(BankART Studio NYK/横浜)、2016「関東学院大学 金沢絵巻プロジェクト」(金沢駅前)、同年スマートイルミネーション金沢「ひかりの写真館」作品画像提供(新金沢区総合庁舎)、2017日本舞踊「もりの会」舞台美術(背景垂れ幕画制作)(徳之島町文化会館)、2019「東京インディペンデンス2019」(東京藝術大学)。



えきなか動物園

会期 | 2020年9月26日[土]~10月11日[日]
会場 | みなとみらい線 馬車道駅

馬車道駅構内を動物園とみたと、各所に現代アーティストが表現した動物をテーマにした作品群(立体/平面)を設置。

井原宏蒔(いはら・こうろ)

1988年大阪府生まれ。2011年多摩美術大学彫刻学科卒業。2013年東京藝術大学大学院彫刻専攻修了。2017-18年ポーラ美術振興財団在外研修員としてイタリアにて研修。主なグループ展に2017「BankART Life V - 観光」(BankART Studio NYK/横浜)。個展に2019「worm in progress」(Kunstraum Bethanien / ベルリン)、2017「die-dye-red」(岡本太郎記念館/東京)他多数。



松本倫子(まつもと・みちこ) (裏面参照)



櫻井かえで(さくらい・かえで)

1974年東京都生まれ。2002年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了。主な展覧会に、2015「ハッピー・ライフ」展(ギャラリーせいほう/東京)、2014「CREATURE」展(いりや画廊/東京)、2011「新港村」(横浜)主な受賞歴に2014年、第13回KAJIMA 彫刻コンクール銅賞。



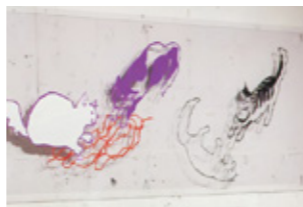
中谷ミチコ(なかたに・みちこ)

1981年東京都生まれ。2005年多摩美術大学彫刻学科卒業。2010年ドレスデン美術大学卒業。2012-2014年ドレスデン造形芸術大学修了。現在、三重県を拠点に活動。主な個展に、2019年「白昼のマスク/夜を固める」(アートフロントギャラリー/東京)、2019年「その小さな宇宙に立つ人」(三重県立美術館 柳原義達記念館/三重)、2011「Under35 個展」(新港村/横浜)など。主なグループ展に、2018「越後妻有アートトリエンナーレ 大地の芸術祭」(津南町/新潟)。



朝倉 摂(あさくら・せつ)

舞台美術家、画家。1922年東京都生まれ。2014年逝去。1970年ロックフェラー財団の招きでNYに滞在、舞台美術を研究、舞台美術家として活動。主な受賞歴に1982日本アカデミー賞優秀美術賞(『悪霊島』)、1985芸術祭賞、1987紫綬褒章、日本アカデミー賞優秀美術賞(『つる-鶴-』)、1995読売演劇大賞優秀スタッフ大賞、2006文化功労者など。2010 BankART Studio NYKにて大規模個展「アバンギャルド少女」を開催。



滝沢達史(たきざわ・たつし)

1972年横浜市生まれ。1997年多摩美術大学絵画科卒業。主な個展に2014「全部」(Steps Gallery/東京)、2012「階段を登ったところにある」(Steps Gallery/東京)、2007「むこうへ」(Gallery ≠ Gallery/東京)、2006「絶望の方舟」(BankART Studio NYK/横浜)。主なグループ展に2019「美術・教育・戦争」(粟島研究所/香川)、2019「表現の生態系」(アーツ前橋/前橋)、2016「瀬戸内国際芸術祭」(粟島研究所/香川)、2008「食と現代美術 part4」(BankART1929 Yokohama/横浜)。



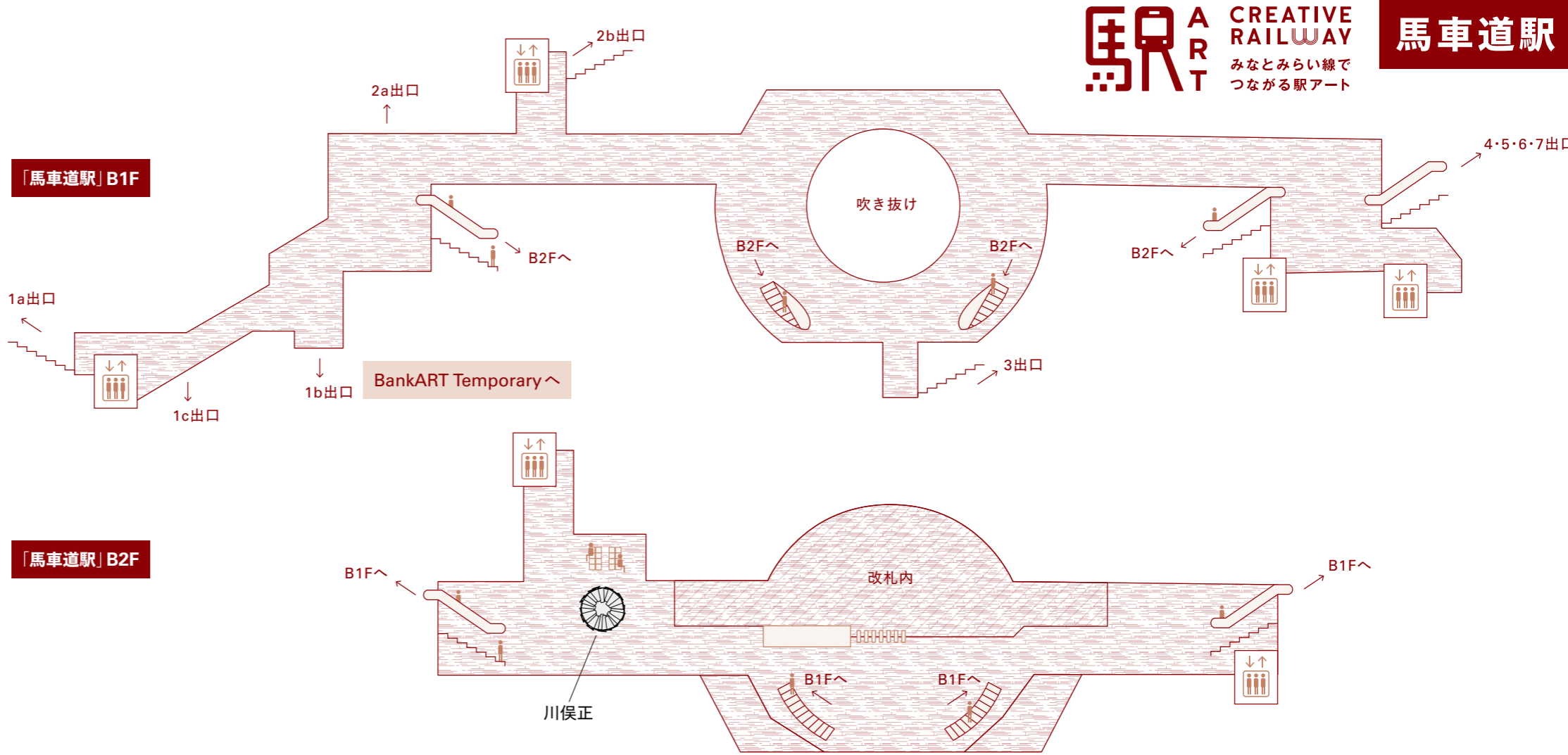
開発好明(かいはつ・よしあき)

1966年山梨県生まれ。多摩美術大学大学院修士課程修了。観客参加型の作品を中心に、社会情勢を取り入れ様々な表現活動を行う。2004「おたく:人格=空間=都市」(ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展)、2006「大地の芸術祭2006」、2011年8月から1ヶ月間東日本大震災被災地30カ所を巡る「デイリリーアートサーカス 2011」。「いちばらアート×ミックス2014」《モグラTV》で人気を博した。2016「中2病展」(市原湖畔美術館/市原)。2019「あそびのじかん」(東京都現代美術館/東京)。



李 承亮(リ・ショウリョウ)

1986年台湾基隆生まれ。2013国立台北芸術大学大学院メディアアート専攻を修了。2008-11、友人と「復興漢スタジオ」を設立。インスタレーション表現を主に台南を拠点に活動。2020 1-3月、横浜市台北市交換AIRにて、BankARTを拠点にレジデンスを行い、「横浜猩々」(BankART Station/横浜)開催。主な個展に、2014「月の宇宙計画-宇宙カプセル+企画図」(台新金控ビル/台北)、2015「月の宇宙計画-宇宙カプセル、旅行車、月」(mt.black/台北)、2016「風を見る犬」(蕭壠国際芸術村/台南)、2017「路上の万年駅」(東門美術館/台南)。



BankART LifeVI 川俣 正「都市への挿入」

会期 | 2020年9月11日[金]~10月11日[日] (休場日:毎週木曜 ※10/8を除く)
時間 | 11:00~19:00
会場 | BankART Station、BankART Temporary、馬車道駅構内
料金 | ¥1,000(一般)、¥600(大学生、専門学校生、横浜市民/在住)、
無料(障がい者手帖お持ちの方/付添1名・高校生以下・65才以上)

